

## 第59回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

皆は一人のために一人は皆のために

富山県 滑川市立滑川中学校 一学年

柳川 紗来

私は、生命保険や医療保険のことは、テレビのコマーシャルを見たり、兄がケガで治療や入院をしたことがあった際に保険のやりとりをしているのを何気なく見ていたので、なんとなく保険の存在は知っていたが、どういう仕組みなのかはよく分かっていなかった。

これを機会に、両親に保険のことを聞いてみた。母は、結婚前にまさにその生命保険会社で働いていたというので、驚いた。

母は、お客様に必要な保険内容はどうなるかを深く考えて選択し、おすすめしていたそうだ。どうしてもそのお客様に適した保険内容のプランが自社に無いと思ったときは、自社や自分の成果にならなくても、そのお客様を第一に考えて、最適な他社のプランを進めていたそうだ。保険といっても、慈善事業ではないので、会社の利益や成績も求められる中、それでもお客様第一で保険というものを考えていた母を素敵に思った。また、「保険に加入していて助かった。」という声をお客様から聞くことも多かったことで、人の役に立っている実感を持てる、やりがいがある仕事だったと言っていた。

父からは、今入っている保険のことを教えてもらった。今、加入している保険は団体信用生命保険だと聞いた。

父が働けなくなるくらいにケガや病気になったり、不運にも亡くなってしまった場合でも、家族が普通に生活していけるだけのお金が毎月入ってくるようにしてあるとのこと教えてくれた。

幸いにも我が家は、両親が今まで大きなケガや病気をすることなく暮らしてこられたから、あまり気にも留めなかったが、確かに明日仮に、父か母に大きなケガや病気が発覚し、手術や入院をすることになったら、莫大な手術費と入院費がかかる上に、日々の収入が無くなってしまふ。貯金があるといっても限りがあり、そのうち底をつくので、食べる物にも困ってしまう状況がやってくることもなってしまう。そう思うとゾッとした。私が今、打ち込んでいる部活動や勉強も、今まで通りにやっている場合ではなくなるだろう。いやいや、私がまだ義務教育段階の今ならそんなレベルではない。すぐに働けるわけでもないから、お金はどうすればいいか、最低限の生活をどうしていけばいいか、想像もつかない。私が高校生や大学生だったら、中退して仕事しないといけないのかもしれない。人生の選択肢を狭められることになるような気がした。

## 第59回中学生作文コンクール

“保険”というものがどういうものか、どういう存在なのか、分かってきた気がする。

もしも、この世に“保険”が無かったら、同じように、不幸にも父や母が大きなケガや病気で働けなくなった家族があった場合、生活を維持していく収入源が無くなる上に、治療費もかかり、子供達は学校へ通っている場合ではなくなってしまう。子供が義務教育段階だったらアルバイトするわけにもいかず、路頭に迷ってしまう。そんな人達が大勢でしてしまう。街頭で募金活動をするわけにもいかない。そう考えると、保険に加入して毎月支払う保険料が、そんな人達のための募金の役割にもなっている気がする。元気に暮らせている世帯から少しずつ集まってもらう、そんな素晴らしいシステムを運用してください。いる保険会社は、素晴らしいと思う。そして、いつしか不運にも自分の家族にも不幸があった場合でも助けてもらえる。また、その安心感を持つことができ、ということとは非常に心強いことで、そのお陰で日々の生活を精一杯頑張ることができていると思う。

だから保険は、生きている人達皆、普段はつながりがないけれど、助け合いの輪を作り、支えているものだと思う。